

2021年の山下小4年生76名と3名の先生に江戸時代から伝わる
からくり屏風の手品を披露した。

坂井 昇

紙には表裏が有ります。1枚のカードには、表に数字1、裏に数字2を張ることができます。2枚組のカードを繋ぐと表は数字1と2、裏は数字3と4ですが、カラクリ屏風でつなぎ合わせると数字1, 2, 3, 4, 5, 6と2枚多く張り付けることができます。3枚組では数字10、4枚組では数字14のカラクリ屏風を披露しました。

そして、名刺と同じ大きさの4枚組のからくり屏風を全員にプレゼントし、手品の扱い方を見せ、できるという児童に実演してもらいました。皆、喜んでいました。

からくり屏風の作成方法（大きさは名刺）

2枚組カードの場合、1枚のカードの右側に幅広の帯を1本、左側に細い帯2本を上下に貼り、残りの帯のないカードと組み合わせてカードに1~6の番号を付けます。別な同じ大きさの紙に1~6までの印刷した紙を用意します。左側の2個の帯のついたカードに数字1を1:2:1の割合で切り離し、貼り付けます。右側の1本帯のカードに数字2を同じ割合で張り付けます。帯の接着剤ははみ出さないように塗ります。数字1と2を閉じて、左手人差し指で開きます。左側に数字3を右側に数字4をそのまま張り付けます。数字3, 4を閉じて反転します。左側2本帯に数字5を1:2:1の割合で張り付け、右側の1本帯に数字6を同じ割合で張り付けます。これで2枚組カードのカラクリ屏風が完成します。

3枚組カードは、3枚カードのうち2枚のカードに、各々、幅広帯1本、細帯2本を2枚組と同じように貼り付けます。次に2本帯のカードと2本帯のカードの組み合わせて貼り付け、さらに帯なしと組み合わせ、カードに番号を付けます。数字は1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10です。名刺大の1~10数字札を用意します。左側2本帯に数字1を2枚カード作成と同じように刻んで貼り付け、数字3, 4は切らずそのまま張り付けます。数字5, 6, 7, 8, 9, 10は2枚カードと同じように刻んで張り付けます。

4枚組の場合はカード3枚に帯を付け、カラクリの組み合わせをして組み立て、番号を付けます。別に用意した数字1~14のうち、数字5, 8を除いて1:2:1で刻みを入れておきます。数字1から14まで同じように貼り付けます。